

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1070100944
法人名	医療法人富士たちばなクリニック
事業所名	グループホームあかしの里
所在地	前橋市日輪寺町東田350番地2号 (電話) 027-232-3500

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年1月17日

【情報提供票より】(平成20年 12月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 17人, 非常勤 7人 常勤換算	21.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000~37,200 円	その他の経費(月額)	外来費 実費
敷金	有 (300,000)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 550 円
	夕食	600 円	おやつ 50 円

(4) 利用者の概要(12月 30日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 富士たちばなクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3ユニットとも理念を共有し、連携しつつも独自性があり、競うようにしてサービスの質の向上に努めている。具体的には、外食に毎月行ったり、畑仕事をしたり、年始めに今年の自分の目標を入居者と職員が一緒に立てて掲示したり、年に一度「夢を叶えるツアー」を企画するなど、特色ある取り組みが展開されている。終末期をホームでむかえる方が多くなってきているが、併設医療機関の医師、訪問看護師、介護老人保健施設等との連携を図りながら、入居者、家族が安心して利用できるように配慮している。地域との日常的な関係を大事にされ、地域との自治防災体制の構築を進めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題は2点である。理念に地域密着型サービスとしての文言が表示されていなかったのを見直し、日中の玄関の施錠については、施錠をしている1ユニットが玄関の扉にブザーを取り付けるなど工夫し、できるだけ施錠を解除できるように取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、自己評価項目表を職員全員に配布し話し合い、各ユニットの管理者がまとめている。職員もサービス評価の意義をよく理解しており、主体的に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は自治会役員や民生委員等10人程で構成され、2ヶ月毎に開催されている。サービスの実際や外部評価結果等報告の後に、話し合いが行われている。自治会役員から文化祭への参加の呼びかけがあり、入居者は1年かけて作品作りをしたり、防災について話し合いがされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見、苦情、不安等を言えるような雰囲気作りを、日頃より心がけている。家族会はユニット毎に年に1~2回開催されている。家族会より夕食時間の変更や職員の名前が把握しにくいという意見等が出され、その改善を図るなど運営に反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏祭り、清掃活動や町内会の防災訓練や総会に積極的に参加し、災害時に車椅子の方を避難させるためのリヤカーを公民館に置いていただいている。年に一度法人全体で感謝祭を行い地域の人々を招待する等ホームを知っていただき、より地域に根ざしたホームを目指している。また、玄関前に手作りのベンチを置き、近所の方が散歩時等気軽に休んでいただけるように工夫している。地域の方が敷地内の老人保健施設にボランティアとして月に何回も来てくださる等日常的な交流も行われている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの名前は川べりに大きなあかしの木があったことに由来し、「安定した自由な環境を提供し、人としての尊厳を保ちながら、その人らしく住み慣れた地域で生活できるホーム」を独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3ユニットとも共通の理念であるが、日々の取り組みにおいてはカンファレンスで話し合ったり、朝礼時に理念を復唱したりユニット毎に工夫してスタッフ全員で理念を共有し、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、清掃活動、町内会の防災訓練や総会等に積極的に参加している。法人全体で行う感謝祭には地域の方々を招待したり、地域の方はボランティアとして、敷地内の老人保健施設に月に何回も来てくださる等、地元の人々と日常的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、自己評価表を職員全員に配布し話しあって管理者がまとめている。前回の外部評価の課題は2点あったが、運営理念の見直しを図り、玄関の施錠時間の短縮等に取り組む等改善がされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は自治会役員や民生委員等10名で構成し、2ヶ月に1回開催されている。サービスの実際や外部評価結果等の報告後に、話し合いが行われている。自治会役員から文化祭への呼びかけがあり、入居者が作品作りに励んだり、ホームの防災にスプリンクラーの必要性が論議されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での行き来はあまりないが、関係は良好であり、事故等問題点が発生した際には連絡・相談を行っている。市の担当者より、インフルエンザ情報等が送付され役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、入居者の暮らしぶり等の近況報告を口頭にて行っている。また、法人で発行している新聞「さんぼみち」で、行事報告、健康記事、職員やボランティア紹介等を行い、月々の請求書と一緒に家族に毎月配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、家族等が意見、苦情等を言えるような雰囲気づくりに努めている。家族会があり、ユニット毎に年に1～2回開催している。会より、夕食の時間の変更や職員の名前が把握しにくいという意見が出され、運営に反映させている。ホームよりターミナルケアについて家族会に話題を提供し、話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は少ないが、新しいホームの開設に伴って法人内異動が行われている。代わる場合は同じサービスが提供できるよう十分な引き継ぎと入居者とのコミュニケーションをよくとるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会は、時間外に月に2回開催されている。法人外の認知症基礎研修、実践者研修等の機会を設け、介護の知識力向上に努め、職員を育てる取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会主催の会議やグループホーム大会等に参加し、同業者との交流を通じたサービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	ひろく他ホーム(法人が運営する他のグループホームを含む)の見学や交換研修の機会を設けて、ネットワークづくりや相互評価などを通じた更なるサービスの質の向上を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家庭訪問や面接を行い、本人が安心し納得した上でサービスを利用できるようにしている。そのために1ヶ月間は仮入居とし、馴染めるかどうか様子を見ながらの入居としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事を一緒に摂ったり、日常的な仕事は入居者と職員が会話を楽しみながら一緒に行い、喜怒哀楽を共にしている。俳句の先生だった入居者の方に、俳句を教えてもらうことを今年の目標としている職員もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や職員とのコミュニケーションの中で、本人の気持ちや意向を把握している。ユニットによっては、質問形式の日記を毎日書いてもらうことにより、入居者の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者には日頃より思いを聞き、家族には面会時に意見を聞き、ケア担当者がよりよく暮らすための介護計画書の原案を作成し、カンファレンスで討議し、その結果を介護支援専門員である管理者がまとめて家族に確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は月1回のスタッフカンファレンスでモニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しを行っている。転倒や退院後等状態の変化時には、医師、家族、訪問看護師等と話し合い、連携を図るなかで現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を算定しており、24時間併設のクリニックや訪問看護師と連絡がとれるようにしている。特別な外出の支援では、年に1回夢を叶えるツアーを企画して、入居者の希望に添えるような支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聞き、入居者や家族が希望するかかりつけ医の受診支援を行っている。専門医への受診が必要な方を除き、ほとんどの入居者が併設のクリニックをかかりつけ医としている。クリニックは敷地内にあるので、受診が基本であるが、移動が困難な場合には往診にて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について家族と話し合っている。その時が近づいてきた時には、医師、家族、管理者、スタッフで繰り返し話し合い、方針を共有している。併設のクリニック、訪問看護事業所、介護老人保健施設との連携に基づいて対応し、昨年は3名の方の看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を大切に、穏やかな言葉かけができるように努めている。記録等の個人情報は、鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きるのが辛い入居者には、無理に起こさずに起きてくるのを見守ったり、入浴を拒否する入居者には入居者に合わせた対応をしている。職員側の決まりごと、都合を優先させるのではなく、できる限り個々のペースに合わせた柔軟な支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、入居者に野菜の皮むき、食器洗い、お茶いれ、おしぼり配り、テーブル拭き等できることを手伝ってもらっている。また職員と入居者が一緒に食事を摂りながら会話をし、楽しい一時を過せるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や入浴回数の制限はないが、平均して週に2～3回の入浴となっている。介護度の高い入居者は、併設の老人保健施設の機械浴を利用している。入浴を楽しむ支援としては入浴剤を選んでもらったり、季節感のあるしょうぶ湯、ゆず湯を行っている。	○	今後の課題として、毎日入浴をしたい、夜間入浴をしたい等のニーズが生じた場合、いかに対応して行くか、その体制の検討を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、おしぼり作り、草むしり、食事前の号令、野菜作り、手芸等、その人のできることを無理なく行っていただけるように支援している。気晴らしの支援として、外でお茶を飲んだり散歩や外食に出かけたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよい時期には、週に3～4回ホームの近くを散歩している。散歩の途中には、農家の方が声をかけてくださる。近隣のスーパーに、食材を買いに行くユニットもある。ドライブや外食を計画し、戸外へ出かけられるように積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1ユニットは、玄関が道路や川に面している。建物の構造上玄関が死角にあるため、安全を考慮して施錠しているが、チャイムにより出入りを把握するようにし、できるだけ解除できるよう取り組んでいる。他の2ユニットは、日中は玄関に鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防災訓練は、年に2回併設の老人保健施設と合同で行っている。日頃より地域での防災訓練に参加し、緊急時、自治会からの協力が得られるように話し合っている。災害に備えて飲料水、非常用食糧を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を、毎回個人の記録にチェックし、職員が情報を共有している。昼食は、併設の老人保健施設で用意されたものをホームで盛り付けている。一人ひとりの状態に応じて、ペーストやキザミ状にする等支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは広く、季節ごとの花を飾ったり、作品を展示、掲示したりして、居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や品物を入居の際に持ってきていただいているので、その人らしい居室になっている。家具の上には家族の写真や入居者が作った作品が飾られていて、居心地よく過ごせるような工夫がされている。		